

令和8年7月31日

関係各位

京都市立堀川高等学校
校長 船越 康平

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 研究指定校

第28回 教育研究大会 兼 令和4年度指定 SSH 最終報告会のご案内(二次)

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は本校教育活動に格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、来る9月18日(金)、本校におきまして第28回教育研究大会を下記のとおり開催いたします。

本大会は、京都市立高等学校教育改革のパイロット校に指定された本校の教育活動を公開し、ご指導とご助言を仰ぐとともに、よりよい高等学校教育の実現に向けて活発な交流を行うために開催するものでございます。また、今回は、令和4年度指定SSHの最終報告会を兼ねて実施いたします。

当日は、本校の総合的な探究の時間である「探究基礎」の生徒研究発表会をご見学いただき、探究の指導法に関して交流を持つ機会とさせていただきたいと考えております。

ご多用のことと拝察いたしますが、多くの方々にご来校いただき、ご指導を賜りたくご案内申し上げます。

記

1. 研究大会テーマ

「主体性の喚起とスキル獲得を両立させる探究の指導」

【参考】SSH認定校 取組の目的

自身の探究の意義、目的を認識させることで主体的な探究に繋げる指導法の実践・共有

2. 概要

日時：令和8年 9月18日(金) 8:45 ～ 16:20

場所：京都市立堀川高等学校 本館

(京都市中京区東堀川通錦小路上る四坊堀川町 622-2)

【プログラム】※一次案内より若干変更しております。

8:15	8:45	9:00	9:15	12:15	13:30	14:30	14:40	15:40	15:50	16:20
受付	開会挨拶 趣旨説明	休憩(移動)	見学 研究発表会 探究基礎生徒	休憩・昼食	ゼミ会見学	休憩(移動)	分科会	休憩(移動)	全体会	閉会挨拶

3. お申込みについて

- (1) 参加費：無料
(2) 参加対象：学校関係者、教育関係者
(3) 申込期間：令和8年8月19日(水) 13:00 ～ 9月9日(水) 13:00
(4) 申込方法：下記リンク、右のQRコード、または本校ホームページよりお申し込みください。

[Microsoft Forms](#)



【お問い合わせ先】

京都市立堀川高等学校 研究部(貴村・飯島)
メール：kenkyu-info@horikawa.ed.jp
電話：075-211-5351

4. プログラム詳細

【1】事前説明動画 **9月11日(金)** 本校ホームページにて配信予定

教育研究大会のテーマおよびSSH研究テーマについて、また探究基礎研究発表会をご見学いただく際の留意点等についてまとめた事前説明動画を本校ホームページにて配信いたします。事前にご覧ください。

【2】開会挨拶・趣旨説明 8:45～9:00

【3】探究基礎生徒研究発表会 9:15～12:15

本校の総合的な探究の時間「探究基礎」では、1年次後期から2年次前期までのゼミ（少人数講座）ごとの活動を通して、こだわりあるテーマを1人1つ設定し、最終成果物として論文を作成します。本発表会は論文執筆の前段階として、自身の研究をポスターにまとめ、多様な他者に対して発表することで、批判や意見を受け止め、よりよい論文を仕上げるための糧とすることを目的としています。率直なご質問・ご意見を生徒に直接お伝えください。会の運営は生徒（探究基礎委員会）主体で行われます。その様子もあわせてご覧ください。

【4】ゼミ会 13:30～14:30

発表会を通してどのような指摘を受けたかを整理し、相互に交流することで、各自が成果と課題に向き合い、今後実行すべきことを再認識するための会です。進行はリーダー生徒（ゼミ長）が担います。その様子もあわせてご覧ください。

【5】分科会 14:40～15:40

分科会A:「総合的な探究の時間」の指導と評価

A① 個人探究の指導のポイント(人文社会系)

A② // (自然科学系)

本校では、1年後期以降の探究活動を学問分野に即したゼミに分かれて行っており、指導のノウハウは教科内で継承されています。分科会A①(人文社会系)およびA②(自然科学系)では、こうした仕組みに基づく成果と課題について報告するとともに、個人探究の指導のポイントや難しさについて、交流したいと考えています。また、探究基礎委員会(探究基礎の授業や探究基礎にかかわる行事を企画・運営する生徒主体の委員会)についてもご紹介し、生徒主体の探究をどのように構築するかについても議論を深めたいと考えています。

A③ 探究活動の評価

本校では「探究基礎」を3観点・11項目のルーブリックで評価していますが、探究基礎をベースとした教育活動を今後いっそう推進していくうえで、あらゆる教育活動に通底するものへとブラッシュアップしていきたいと考えています。分科会A③では、ご参加のみならずとともに、探究基礎ルーブリックの改訂案を検討することを試みます。

分科会B:「総合的な探究の時間」と他の教育活動とのつながり

B① 探究のスキルを獲得させる取組

本校では探究の「型」を全員必修の「理数探究基礎」で学んでおり、「探究基礎」(総合的な探究の時間)と併置して、理数探究基礎で学んだスキルを探究基礎で転用することをねらっています。分科会B①では、本校の理数探究基礎の概要をお伝えしたうえで、探究のスキルを獲得させる取組の具体的実践について幅広く交流したいと考えています。

B② 探究と教科学習とのつながり

本校では、探究と教科学習のつながりを生徒も教員も意識できるよう心掛けています。特に近年は、探究基礎2年後期の Academic Project において、教科書や大学入試の学問的背景を深く掘り下げる「グループ探究(学問探究系)」「テーマ学習」という探究活動も試みており、授業の枠組みにとられないかたちで探究と教科学習を結びつける挑戦をしています。分科会B②では、グループ探究(学問探究系)の実践報告をしたうえで、各校での探究と教科指導とのつながりについて、現状やアイデアを交流したいと考えています。

B③ 探究道場の取組

本校では、中学生対象の探究ワークショップ「探究道場」を年数回実施しています。近年では、ワークショップの立案から当日の運営、中学生に対するファシリテーションまでを生徒主体で行う体制が整っており、このシステムを全国に普及させる取組を進めているところです。分科会B③では、これまでの探究道場全国普及の成果と課題を報告し、探究にまつわる課外活動の現状や、課題活動・スタッフ活動と総合的な探究の時間のつながりについて交流したいと考えています。

【6】全体会・閉会挨拶 15:50～16:20